

佐陀ハウス

佐陀ハウス主宰・鹿島ポニー牧場代表
田和山サポートクラブ副会長
元古代オリエント博物館研究部長

ほり あきら
堀 暁 さん



左から 横山さん・白石さん・新原さん・堀さん。
現在6人の学生がこの活動に参加している。



汗だくで棟上げを終えた後は、堀さんお手製のひつまぶしで昼食。

敷地内には、ヤギやネコ
など動物もたくさん。



佐陀ハウス

松江市鹿島町佐陀宮内820
数日前までに要連絡
☎ 080-6771-4124 (堀さん)



地域に誇りを感じてほしい

person
of
Matsue

小さいころ、あやうて遊んだなと心の片隅にでも残ってくれたらいいなと思ってやっています。鹿島のポニー牧場は、動物と触れ合い、世話をすることでセラピーになったらなと始めました。考古学者なので、田和山という日本史上唯一無二の価値がある遺跡が地域にあることを誇りにしてもらいたいとサポート活動をしています。小学生を見ていて感じるのは、女の子はしっかりして活発な子が多く、男の子はビビリな子が多いかな。こうした活動はとても一人ではできないし、僕ができるのもあと十年かそこらなので、後を継ぐ若い人が出てくれることを願いながら、島大生の人たちにも協力してもらっています。



鹿島ポニー牧場。



田和山での自然学習の様子。

佐陀町にある自宅裏山で、子どもの遊び場を作られている堀さん。自宅ギヤラリーでは陶芸教室、近くでポニー牧場を開いています。この日は暑いく、島根大学の学生さんたちと縄文風の竹ハウスの棟上げをなさっていました。

person of Matsue

こんな人たちに支えられている松江の子育て

子どものころの遊び・体験は豊かな成長になくてはならない宝。
紙面で紹介するのはほんの一部ですが、子どもたちの遊び場や
体験の場づくりに真剣に取り組む人たちが、松江にはたくさんいます。



「結構魚がいるんだよ」と見せてくださる三島さん。



納屋の中には囲炉裏やさまざまな道具がある。「山で竹を切って、ご飯を炊いて食べてもらってもいいね」と三島さん。



喜びにあふれた人生を
送ってもらいたい

person
of
Matsue

いけずご王国

いけずご王国代表・元島根県議会議員

みしま おさむ
三島 治 さん

2018年8月27日、松江市新庄にオープンしたばかりの
「いけずご王国」代表の三島さんに伺いました。



オープン前日開催されたキックオフイベントは大盛況。



パネリストの皆さん。アナスタシアジャパン代表岩砂晶子さん、森のようちえんまるたんぽう代表西村早栄子さん、未来を救う子どもの学舎つくり代表首藤政秀さん(左から)。



いけずご王国

松江市新庄町146
2〜3日前までに要連絡
☎ 090-7895-9418 (三島さん)

『いけず』っていうのはいたずらっ子、悪ガキっていう感じかな。今は、みんな良い子で息苦しいんじゃないかな、もっと自然の中で自由にして暴れてほしいなと思って名付けました。きっかけは、友人に『学校を作って』と何度も言われたこと。僕は教育者じゃないし、できるのは場を提供することかなと考えているところに埼玉の友人からも「場所を探してほしい」と頼まれて、一緒に立ち上げることにしました。ここには、山と川と田んぼがあって、納屋もあるから、なるべく干渉せずに自分で考えて、モノを作ったり、遊んだりしてほしいなあ。泥んこ遊び、直だきお風呂、山野草を採って調理したり、自然や宇宙から学び、地域の古老たちから経験を学んだりできる場になればいい。これからここに集まってくれる人、子どもも大人もみんなで一緒に考えながらやっていきたいとワクワクしています。

自然の中で本物の

体験をさせてあげたい



みんなのあそびばasoviva

きしりょうすけ

代表 岸良助さん(右)

スタッフ

ふなきかい

船木海さん(左)

てんぐの森プレーパーク

程よく間引きされ木漏れ日あふれる森の広場。小川で水遊びする子、ロープブランコする子、散策する子、虫捕りする子、小さなたき火でウインナーを焼いてバクリと頬張り遊びに戻る子。思い思いに遊ぶ子どもたちと、さりげなく見守る大人たち。プレーパークは基本「ダメ(禁止)」がない空間で、子どもたちが自分のペースと責任で思うがまま楽しみを見つucker遊び場です。「危ない」「汚い」などの言葉は飛び交いません。

岸さんは、自然の中で自由に遊び、かけがえない経験をした自らの子どもをのころを振り返り、そんな場を提供したいと4年前から活動を始めました。遊具は手づくり。時には子どもたちも手伝います。誰でも参加できるのも魅力で口コミで評判が広がり、リピーターが増えています。

「今の子どもには時間、空間、仲間、そして遊びを体験させる大人の時間、いわゆる『四間』がない。学校や家庭で教わったり経験したりできないことをasovivaがつくる。『役割分担』をする気持ちで活動している。子どもたちには思いっきり楽しんでほしい」と語ります。



中高生、大学生のボランティアも歓迎です！

子どもたちだけでも行ける

遊び場をつくりたい



千手院の裏に広場がつけられます。



城北地区に子どもの遊び場を作る会

なかつみつとし

代表 中田光俊さん

千手院の森

松江の名刹・千手院に、地元の方々の手によって新たな魅力が誕生しようとしています。松江に惹かれ6年前に城北地区に「ターン」してきた中田さん。住むほどに松江を好きになるなかで、唯一、物足りなさを感じていたのが子どもの遊び場。しかも子どもの徒歩圏内に遊べる広場がないことでした。2017年2月、公民館で開かれた松江市主催の地域づくり意見交換会に参加したのをきっかけに、地区内に遊び場を自分たちで作ろうと有志に呼びかけ活動を始めました。第一弾は、地区内のお寺の協力を得て城北小幼稚園の子どもたちに芋ほり体験の畑づくり。園外活動の少ない同幼稚園には貴重な体験の場となっています。第二弾が遊び場づくりです。千手院から裏庭の竹林の提供を受け、今夏から休みの日を使って竹林と、林につながる遊歩道の整備を始めました。

「子どもだけでも行ける自宅周辺の自由な遊び場を作ってあげたい。あえて大きな遊具はつくりません。森、林の中で木々や土の匂い、感触を感じながら遊びを自分で見つけ、伸び伸びと育つてほしい。もちろん城北地区以外の子どもたちの利用も歓迎です！」と中田さん。2018年中の完成を目指しています。



猛暑の中で蚊と戦いながら竹を伐採し、歩きやすい空間づくり。公民館だよりやフェイスブックなどで呼びかけ協力者の輪が広がっています。

出雲かんべの里 てんぐの森 (松江市大庭町1614)
毎月第3日曜日 10:00~16:00
予約不要、参加無料 (昼食を食べる場合は100円)
小学生以上は子どもだけでも参加OK
お問い合わせ: 岸さん ☎ 090-6411-7377

Facebook みんなのあそびば



笑顔と真剣な眼差しが入り混じる。

